

聳島に移送したアホウドリのヒナ全羽の巣立ちについて

環境省自然環境局 同時発表

平成 22 年 5 月 31 日(木)
(財)山階鳥類研究所

小笠原群島^{むこじま}聳島におけるアホウドリの新繁殖地形成事業として、今年の 2 月 8 日に伊豆諸島鳥島から聳島までヘリコプターで移送したアホウドリのヒナ 15 羽 (オス 11 羽、メス 4 羽) 全てが、5 月 29 日までに聳島の飼育サイトより巣立ちましたので、お知らせいたします。

移送したヒナは移送後約 3 か月間、(財)山階鳥類研究所の研究チームからの給餌を受け、順調に成長してきました。5 月 18 日に 1 羽のオスが巣立った後、他のヒナも順に巣立ちを迎え、29 日に最後のメス 1 羽が巣立ちました。

巣立ち後のヒナは、北太平洋のベーリング海やアリューシャン列島、アラスカ沿岸、アメリカ西海岸まで渡っていくものと予想されます。

今回巣立ったヒナ 15 羽のうち、6 羽に衛星発信器を装着していますので、今後の巣立ち後の行動についても明らかとなる予定です。

※この事業は、(財)山階鳥類研究所が、環境省、米国魚類野生生物局、三井物産環境基金、公益信託サントリー世界愛鳥基金等の支援を得て実施しているものです。

● ヒナの巣立ちについて

巣立ち日	巣立ち羽数	♂♀	発信器
5 月 18 日	1 羽	オス	●発信器装着
21 日	1 羽	オス	-
22 日	1 羽	オス	●発信器装着
24 日	9 羽	オス 6 羽	●発信器装着 × 2
		メス 3 羽	●発信器装着
25 日	1 羽	オス	
27 日	1 羽	オス	
29 日	1 羽	メス	●発信器装着
計 15 羽			(発信器装着: 計 6 羽)

<次のページにつづく>

● これまでの経過

<平成19年>

- 3月～6月 近縁種のクロアシアホウドリによる移動・飼育試験を実施。
9月 環境省野生生物保護対策検討会アホウドリ保護増殖分科会において、事業の実施内容について検討。

<平成20年>

- 2月19日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ10羽をヘリコプターに載せて、小笠原群島聳島まで移送。

↓ (山階鳥類研究所の職員が聳島に滞在し、ヒナの人工飼育を実施。)

- 5月19日 ヒナ1羽が巣立ち。
5月25日 移送したヒナ全10羽が巣立ち。
6月30日 発信器装着個体のうち4羽がアリューシャン列島海域に到達。

<平成21年>

- 2月5日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ15羽を、小笠原群島聳島まで移送。

↓ (山階鳥類研究所の職員が聳島に滞在し、ヒナの人工飼育を実施。)

- 5月11日 ヒナ1羽が巣立ち。
5月25日 移送したヒナ全15羽が巣立ち。
10月12日 米国カリフォルニア州サンフランシスコで確認。

<平成22年>

- 2月8日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ15羽を、小笠原群島聳島まで移送。

↓ (山階鳥類研究所の職員が聳島に滞在し、ヒナの人工飼育を実施。)

- 5月18日 ヒナ1羽が巣立ち。
5月29日 移送したヒナ全15羽が巣立ち。
3月～4月 平成19年に聳島から巣立った9羽のクロアシアホウドリのうちの3羽の若鳥が、聳島に帰還した。

※巣立ち前後のアホウドリのヒナの画像(デジタルデータ)を希望の方はご連絡ください。

この件についての連絡先

(財)山階鳥類研究所 (270-1145 我孫子市高野山115)

保全研究室 室長 尾崎清明 (又は広報担当 平岡考)

電話 : 04-7182-1107、Fax:04-7182-4342、メール : ozaki@yamashina.or.jp



羽ばたきの練習をするヒナ
(5月13日)
手前はデコイ(模型)



巣立ちの瞬間
(5月27日)



巣立って海上に浮かぶヒナ
(5月28日)